

「第3回年次カンファレンス」 ～患者のために何ができ、何をすべきか～

(2008年12月6日(土), 於: 東京都・東京大学安田講堂)



1. 開催日時: 2008年12月6日(土)
2. 開催場所: 東京都・東京大学安田講堂
3. プログラム: 別紙のとおり
4. 参加人数: 約700名

以上

【午前の部：特別講演】

テーマ：末期医療をめぐる議論の総括と今後の展開

座長 九州大学 元総長 / 第 26 回日本医学会総会 会頭 杉岡洋一

講演 1 . 患者の最善と患者の意思の狭間で 意思決定プロセスの臨床倫理

演者 東京大学 大学院人文社会系研究科 上廣死生学講座 特任教授 清水哲郎

講演 2 . 医療の差し控え・中止と無益性（治療の限界）論 - 関連ガイドラインの策定に着手して

演者 昭和大学医学部附属病院 副病院長 / 医学部教授 有賀徹

講演 3 . 判断能力のない場合の対応 リビングウィルおよび代諾の許容性と今後のあり方

演者 神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山英二

【午後の部 1：シンポジウム】

テーマ：医療事故対応 大野病院事件を契機として反省すべきこと・取り組むべきこと

座長 京都大学 名誉教授 / 日本哲学会 前会長 加藤尚武

1. (座長キーレクチャー)

医療事故の刑事処罰とそれへの疑問 「再発防止機能」と「応報感情の鎮静」との視点から

演者 京都大学 名誉教授 / 日本哲学会 前会長 加藤尚武

2. («再発防止機能」との関係から反省すべきこと・取り組むべきこと)

院内検証・事故調査の重要性と報告書のあり方 - 何を検証・調査し、それをどう示すべきか？

演者 東京大学医学部附属病院 医療安全対策センター長 原田賢治

3. («応報感情の鎮静」との関係から反省すべきこと・取り組むべきこと)

事故後の患者とのコミュニケーション - 「謝罪」をめぐる取り組みと管理者の信念の重要性

演者 社会保険 相模野病院 病院長 内野直樹

4. 被害者の社会による救済と有害事象の早期解決 産科無過失補償制度と今後の展開の可能性

演者 財団法人 日本医療機能評価機構 理事 (産科医療補償制度事業管理者) 上田茂

【午後の部 2 : 会員報告】

座長 東京大学大学院医学系研究科 医療安全管理学講座 前田正一

1. 病理標本の検体間違いの防止等に向けて 検査科における医療安全管理の取り組み

演者 嶋崎明美 (国立病院機構 姫路医療センター)

2. 医療機器の安全対策 電子カルテ上から、逐一、添付文書を確認できる仕組みづくり

演者 江原一雅 (神戸大学医学部附属病院)

3. 注射・採血時の神経損傷と医療従事者に対する法的責任の動向

演者 花田 誠 (東京大学大学院医学系研究科)

4. 北海道大学病院における死因分析 - 医療安全調査委員会設置後に向けて

演者 南須原康行 (北海道大学病院)

5. オーストラリア (ヴィクトリア州) における医療従事者の刑事処罰と行政処分

演者 Vincent Lau (東京大学大学院医学系研究科)